

(提案18)

日本学術会議主催学術フォーラム「生命情報ビッグデータ時代における新しい生命科学」の開催について

1. 開催日時 平成26年8月29日(金) 13:00～17:30
2. 開催場所 日本学術会議講堂
3. 開催趣旨
 現在、生命科学はこれまで経験しなかった局面に接している。大容量の生命情報ビッグデータが現実溢れ、これを用いて生命の動作原理の理解を目指す方向性を見出す必要がある。生命の動作原理の理解には、生命システムの時空間動態情報を与えるバイオイメージングと、大容量生命情報を取り扱うバイオインフォマティクス技術の融合が重要になると考え、この2つの分野の接点を探りながら、きたる新しい生命科学の像を描きたい。
4. 次第(予定)
 - 13:00 開会挨拶・趣旨説明
 曾我部正博 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学研究科教授)
 - 13:10～13:35 佐甲 靖志 (理化学研究所 佐甲細胞情報研究室主任研究員)
 「細胞内反応ネットワークの1分子計測」
 - 13:35～14:00 黒田 真也 (東京大学大学院 理学系研究科生物化学専攻教授)
 「トランスオミクスによる代謝制御グローバルネットワークの再構築」
 - 14:00～14:25 大浪 修一 (理化学研究所生命システム研究センター チームリーダー)
 「バイオイメージ・ンフォマティクスが切り開く新しい生命科学の可能性」
 (休憩)
 - 14:35～15:00 神沼 英里 (国立遺伝学研究所、生命情報研究センター助教)
 「ビッグデータ時代のゲノム情報解析とクラウドソーシング」
 - 15:00～15:25 岩崎 渉 (東京大学 大学院理学系研究科准教授)
 「バイオインフォマティクスから時空間解析へ」
 - 15:50～16:20 有田 正規 (国立遺伝学研究所 生命情報研究センター教授)
 「新しい生物学：情報の囲込みから検証科へ」
 - 15:50～16:20 木寺 詔紀 (横浜市立大学大学院 国際総合科学部教授)
 「スパコンを用いたビッグデータ解析の生命科学における役割」
 (休憩)
 - 16:30～17:20 総合討論
 (コーディネーター)

諏訪 牧子（日本学術会議連携会員、青山学院大学理工学部教授）
野地 博行（日本学術会議特任連携会員、東京大学工学研究科応用化学専攻教授）

他登壇者

17:30 閉会

(提案19)

日本学術会議主催学術フォーラム
「ニュー・ガバナンスの限界と社会的包摂」の開催について

1. 主催 日本学術会議

2. 開催日時 平成26年9月27日(土) 13:30~17:00

3. 開催場所 日本学術会議講堂

4. 開催趣旨

近年の社会政策の特徴として、中央政府から地方自治体および民間組織への責任と権限の委譲があげられる。このような官民協働による新体制をここではニュー・ガバナンスと総称し、この体制下で社会的包摂に関わる政策を推進するにあたっての課題を検討する。

5. 次第(予定)

はじめに ニュー・ガバナンスの限界と社会的包摂

大沢 真理(日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授)

報告1 社会的包摂を目指したニュー・ガバナンス:

包摂的社会政策に関する多角的検討分科会からの提言

阿部 彩(日本学術会議連携会員、国立社会保障・人口問題研究所社会保障
応用分析研究部長)

報告2 社会的包摂と人権

井上 英夫(日本学術会議連携会員、金沢大学名誉教授)

報告3 外国人労働政策と社会的包摂能力

久本 憲夫(日本学術会議連携会員、京都大学公共政策大学院教授)

報告4 ニュー・ガバナンスと社会組織

須田木綿子(日本学術会議連携会員、東洋大学社会学部教授)

まとめ

武川 正吾(日本学術会議連携会員、東京大学人文社会学系研究科教授)

(提案20)

公開シンポジウム「我が国における性犯罪者の処遇プログラムとその効果」の開催について

1. 主催 日本学術会議 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会
2. 共催 公益社団法人日本心理学会
3. 日時 平成26年7月12日(土) 13:00~17:00
4. 場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎134講義室
5. 分科会の開催 開催予定なし

6. 開催趣旨

平成16年に発生した奈良の女儿誘拐殺害事件が再犯者によるものであったことから、性犯罪者処遇の充実を求める声が高まり、法務省は2006年から刑務所や保護観察所などの司法施設において、海外の認知行動療法プログラムを参考に構築した性犯罪者処遇プログラムの実施を開始した。従来からこうした施設では職業訓練や生活指導などが行われており、また、個別的に臨床心理学的支援も試みられてきたが、理論と実証に基づいて処遇プログラムを組み、その効果検証までを行うという科学的な犯罪者処遇計画は我が国では初めてのこともあり、注目を集めてきた。最近、このプログラム受講者の出所後を追跡した再犯検証結果なども報告され始め、その有効性が改めて論議されている。こうした犯罪者処遇プログラムは他の罪種にも拡大される方針だが、いずれも認知行動療法を基盤とした心理学的アプローチであることから、矯正分野における心理学の有効性が試されている重要な社会実験とも言える。本シンポジウムでは、こうした性犯罪者処遇プログラムに関わる取り組みを主題として取り上げる。

7. 次第

企画 大淵 憲一* (日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科教授)
日笠 和彦 (川越少年刑務所教育部長、前法務省矯正局成人矯正課補佐官)

13:00 趣旨説明

大淵 憲一* (日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科教授)

13:30 「日本における性犯罪者処遇プログラムの導入」

妹尾 栄一 (茨城県立こころの医療センター第三医療局長)

14:00 「日本における性犯罪者処遇プログラムの実際」

寺田 孝 (府中刑務所教育専門官)

14：30 休憩

15：00 「日本における性犯罪者処遇プログラムの効果検証」
猪爪 祐介（法務省矯正局成人矯正課法務事務官）

15：30 指定討論
箱田 裕司*（日本学術会議第一部会員、京都女子大学発達教育学部教授）

16：00 質疑

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案21)

公開シンポジウム「医療の質・安全に役立つ心理学研究を考える」の開催について

1. 主催 日本学術会議心理学・教育学委員会社会のための心理学分科会

2. 共催 公益社団法人日本心理学会 協賛 医療の質・安全学会

3. 日時・場所

(1) 京都会場

平成26年7月19日(土) 13:00~17:00

キャンパスプラザ京都 第2講義室

(2) 東京会場

平成26年7月26日(土) 13:00~17:00

東京大学弥生講堂一条ホール

4. 分科会 分科会開催予定なし

5. 開催趣旨

超高齢社会と急速な社会情報化の下、医療・医学も「白い壁」を越えて一般社会との連続性の中で、質と安全を考える必要が明らかになってきた。「人の心のメカニズム」を明らかにする心理学は今、より医療・医学に役立つ研究成果を提供できるのではないか。本シンポジウムは、医療の現場あるいはその近くから、心理学の研究を通じて医療・医学に寄与したいとする研究者が集まり、「医療医学の質・安全に貢献できる心理学研究の在り方」について考える。

6. 次第

司会 京都・東京会場共通

箱田 裕司* (日本学術会議第一部会員、京都女子大学発達教育学部教授)

原田 悦子* (日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授)

(1) 京都会場

13:00 趣旨説明

原田 悦子* (日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授)

13:30 「健康・医療情報を読み解く健康リテラシーと批判的思考力」

楠見 孝 (京都大学大学院教育学研究科教授)

14:00 「メタ認知と安全：エラーを検出する医療従事者の個人特性」

石松 一真 (滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科准教授)

14:30 休憩

15:00 「これからの医療と情報：患者と医療従事者を結ぶ情報」
南部美砂子（公立ほこだて未来大学情報アーキテクチャ学科准教授）

15:30 「『使いやすさ』と医療安全：在宅医療まで視野に入れて」
原田 悦子*（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授）

16:00 質疑

(2) 東京会場

13:00 趣旨説明
原田 悦子*（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授）

13:30 「デザイン心理学による医療現場への貢献」
日比野治雄（千葉大学大学院工学研究科教授）

14:00 「在宅医療：加齢による変化と医療機器のありかたを考える」
須藤 智（静岡大学大学教育センター講師）

14:30 休憩

15:00 「リスク共有コミュニケーションと医療情報化」
原田 悦子*（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授）

15:30 「時間的展望から死生学教育を考える」
下島 裕美（杏林大学保健学部准教授）

16:00 質疑

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案22)

市民公開講演会「社会のための科学を考える」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 第三部

2. 共 催： 北海道教育大学

3. 後 援： 日本学術協力財団

4. 日 時： 平成26年8月4日（月）13：00～16：00

5. 場 所： 旭川市民文化会館

6. 分科会等： 第三部会を開催予定

7. 開催趣旨：

第三部が夏季部会を旭川で開催するにあたり、一般市民を対象とした講演会を開催する。

内容としては、一般の聴衆に興味があり、また理解しやすい話題を、実際にその研究の第一線で活躍している科学者に話していただくことにし、「人類の進歩に役立つ科学の例：有機ホウ素化合物を利用する有機合成」、「北海道の自然とジオパーク活動～地域の自然・文化遺産を発信する」、「東日本大震災からの復興(仮題)」の3テーマについて取り上げる。

8. 次 第：

開会(13:00)

司 会 氷見山幸夫*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

13:05～13:10

開会挨拶 荒川 泰彦*（日本学術会議第三部会員、東京大学生産技術研究所教授）

13:10～14:00

講演1 「人類の進歩に役立つ科学の例：有機ホウ素化合物を利用する有機合成」
鈴木 章（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

14:00～14:50

講演2 「北海道の自然とジオパーク活動～地域の自然・文化遺産を発信する」
和田 恵治（北海道教育大学教育学部教授）

14:50～15:00 (休 憩)

15:00～15:50

講演3 「東日本大震災からの復興(仮題)」

石川 幹子* (日本学術会議第三部会員、中央大学工学部教授)

15:50～16:00

閉会挨拶 大西 隆* (日本学術会議第三部会員・会長、東京大学名誉教授、豊橋技術科学大学学長)

開会 (16:00)

(*印の講演者は、主催部会員)

(提案23)

公開学術講演会「食と健康：科学の進歩と日々の暮らし」の
開催について

1. 主 催：日本学術会議 第二部、中部地区会議 (P)
2. 共 催：名古屋大学
3. 後 援：中日新聞社 (申請中)、日本学術協力財団、医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成26年8月5日 (火) 13:30～16:15
5. 場 所：名古屋大学野依記念学術交流館
6. 部会の開催：あり

7. 開催趣旨

日本学術会議第二部夏季部会の開催を機に、一般市民の皆さんを対象に、学術の進歩の今日的な意義を日々の暮らしとの関わりで理解していただく催しとして企画した。全体のテーマを社会的な関心の高い「食と健康」とし、第一線で活躍中の研究者に分かりやすく講演していただく。

8. 次 第

13:30 開会挨拶

大西 隆 (日本学術会議第三部・会長、豊橋科学技術大学学長)

高橋 雅英* (日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院医学系研究科長)

13:40 講演 「食と健康：人類文明の業」

横山 信治 (中部大学応用生物学部教授)

14:15 講演 「超高齢化社会における栄養・食の問題」

葛谷 雅文 (名古屋大学未来社会創造機構・人とモビリティ社会の研究開発センター教授)

14:50-15:00 (休憩)

15:00 講演 「食習慣と非アルコール性脂肪性肝炎—動物モデルから性差と血圧の関与を考える—」

那須 民江* (日本学術会議第二部会員、中部大学生命健康科学部教授)

15:35 講演 「動物感染症を含め食の生産を巡る問題を考える」

吉川 泰弘* (日本学術会議第二部会員、千葉科学大学副学長)

16:10 閉会挨拶

春日 文子* (日本学術会議第二部会員・副会長、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長)

16:15 閉会

(司会) 生源寺眞一* (日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

(*印の講演者等は主催部会員)

(提案24)

公開シンポジウム「薬学教育への期待：4年制薬学教育のあり方と
参照基準の作成に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 薬学委員会 薬学教育分科会
2. 共 催：日本薬学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成26年8月6日（水）13:00-17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨

日本学術会議薬学委員会では、新薬学教育制度がスタートしたことを機に、4年制及び6年制薬学教育の体系について検討するとともに、薬を通して医療と健康に貢献できる人材を育成するための諸方策を推進することを目的として活動してきたところ。

今回、「薬学」の参照基準の策定にあたり薬学教育のあり方について広く意見交換を行い、4年制薬学教育が現在直面している諸問題についても検討することを目的として、「薬学教育への期待：4年制薬学教育のあり方と参照基準の作成に向けて」をテーマとしてシンポジウムを企画したものである。

創薬、医薬品開発等に係わる諸領域で活躍される皆様にご講演いただき、議論を深めることにより、次世代を担う優れた薬学研究者、医療人を育てるための学部教育を推進していくことを社会に向けて発信できることが期待される。

8. 次 第 (13:00～17:00)

○主催者側挨拶 13:00～13:15

橋田 充*（日本学術会議第二部会員・薬学委員会委員長、京都大学大学院薬学研究科教授）

柴崎 正勝（微生物科学研究所化学系所長、日本薬学会会頭）

○趣旨と進行の説明 13:15～13:30

赤池 昭紀*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科教授）

○講演 13:30～16:30

13：30～13：45 「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂」
松木 則夫*（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）

13：45～14：15 「大学教育の分野別質保証と参照基準」
広田 照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

14：15～14：45 「薬学教育への期待（製薬企業の立場から）」
高柳 輝夫（ヒューマンサイエンス振興財団理事長）

14：45～15：15 「薬学教育への期待（薬害との関連）」
花井 十伍（全国薬害被害者団体連絡協議会・代表世話人）

15：15～15：30 休憩

15：30～16：00 「薬学教育の現状と期待（創薬研究から）」
大高 章（徳島大学薬学部・大学院薬科学教育部教授）

16：00～16：30 「くすりと薬学教育（PMDA 並びに医薬農工融合拠点の経験を通じて）」
内海 英雄*（日本学術会議連携会員、九州大学先端融合医療レドックスナビ拠点研究統括者、特任教授）

○質疑と討論 16：30～16：55
太田 茂*（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授）

○閉会の挨拶 16：55～17：00
太田 茂*（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者等は主催分科会委員）

(提案25)

公開シンポジウム「第4回先端フォトニクスシンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会 IC0 分科会
2. 共 催：応用物理学会
3. 協 賛：日本物理学会、電子情報通信学会、日本化学会、レーザー学会、分光学会
4. 日 時：平成26年8月8日（金） 11:00～17:30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

光科学技術の歴史と現状を俯瞰すると共に最先端の話題を紹介する講演会を開催し、この分野が生み出したインパクトや今後のイノベーションを国内にアピールする。様々な分野における黎明期世代から現役若手研究者までを発表者とする事で、学会間交流、世代間交流、次代の若手育成、新しい産業やコミュニティーの創生を推進する。

8. 次第

11:00 開会

開会挨拶 荒川 泰彦*（日本学術会議会員、東京大学生産技術研究所教授）

挨拶 河田 聡*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

11:10 特別講演 末松 安晴（東京工業大学栄誉教授）

「光ファイバ通信システム指向の半導体レーザー研究～本格的な光ファイバ通信の曙～」

- 11:50 特別講演 藤嶋 昭 (日本学術会議連携会員、東京理科大学学長)
「光触媒の現状と今後の発展の方向」
- 12:30 ポスター発表 国内研究グループから推薦された若手研究者 約70名
- 14:30 講演 美濃島 薫* (日本学術会議連携会員、電気通信大学情報理工学
研究科教授)
「超高精度の光のものさし：光コム」
- 15:00 講演 藤田 克昌 (大阪大学准教授)
「超解像顕微鏡 ～光学系の限界を超える～」
- 15:30 講演 活躍する若手研究者1 (調整中)
- 15:45 講演 活躍する若手研究者2 (調整中)
- 16:00 講演 活躍する若手研究者3 (調整中)
- 16:15 講演 活躍する若手研究者4 (調整中)
- 16:30 休憩
- 16:40 特別講演 久間 和生 (総合科学技術会議議員)
「日本の科学技術イノベーション政策～先端フォトニクスへの
期待～」
- 17:20 閉会
閉会挨拶 五神 真* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研
究科教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案26)

公開シンポジウム「進化は生物学を統合する」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 統合生物学委員会 進化・系統学分科会
2. 後 援：日本進化学会・生物学会連合（依頼予定）
3. 日 時：平成26年8月9日（土）13：30～18：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

ラマルクの進化論以来、進化学は200年ほどの歴史しかないが、分子遺伝学の発展により、自己複製するDNAが遺伝子の情報を乗せており、それが突然変異を蓄積しつつ多様な生命界を生み出してきたことが明らかになった。今や進化が生命現象に本質的であることはあきらかである。さらに20世紀末から多くの生物のゲノム配列が決定されると、ゲノムに刻まれた生命の歴史の研究が大きく進展してきた。このような現状は、進化現象こそが生物学を統合するであろうことを強く予想させるものである。そこで本シンポジウムを提案した。

7. 次 第：

13：30 主催者あいさつ

齋藤 成也*（日本学術会議第二部会員、国立遺伝学研究所教授）

13：35 イントロンの起源-タンパク質とゲノム情報から

郷 通子*（日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構理事）

14：05 単膜系オルガネラで発見された第三の分裂リングから読み解く真核細胞の起源

黒岩 常祥*（日本学術会議連携会員、立教大学理学部生命理学科教授）

14：35 植物化石が語る動物の進化

西田 治文*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

15：05 脊索動物の起源と進化

佐藤 矩行*（日本学術会議連携会員、沖縄科学技術大学院大学教授）

15：35-15：50 休 憩

15：50 共生、進化、生物多様性

深津 武馬*（日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所首席研究員）

16：20 環境適応進化を制限する機構と可能にする機構

河田 雅圭*（日本学術会議連携会員、東北大学大学院生命科学研究所教授）

16：50 進化は人間の諸学を統合するか

長谷川真理子* (日本学術会議連携会員、総合研究大学院大学副学長)

17:20 総合討論

(司会)

斎藤 成也* (日本学術会議第二部会員、国立遺伝学研究所教授)

(コメンテーター)

進化・系統学分科会の他の委員 (未定)

18:00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案27)

公開シンポジウム「我が国の大学等キャンパスに国際競争力はあるか」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 土木工学・建築学委員会 大学等研究・教育キャンパス整備に関する検討分科会
2. 後 援： 日本建築学会（予定）、日本土木学会（予定）、日本造園学会（予定）
3. 日 時：平成26年8月22日（金）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：当日午前中に開催

6. 開催趣旨：

我が国の大学のキャンパスデザインは世界的にも競争力が低いと多くの大学において自己評価されている。大学に入ってくる学生の期待に対し、必ずしも応えられていない。入学してくる若い人たちは大学の空間に多く失望していると報告されている。これからの我が国の大学の戦略としての海外からの留学生を受け入れる視点からもキャンパス整備は重要である。我が国のキャンパス整備には過去多くの資金が投入されたにも関わらず、それが歴史的な重層化に必ずしも成功せず、どちらかといえば空地に建物を建設し、混乱した環境に向かっている傾向がみられる。大学等キャンパスの再整備は我が国の学術分野の発展と相まって早急に整えられなければならない。

我が国の国際競争力のある大学等キャンパス整備における課題と将来展望について議論する。

7. 次 第：

1. 開会及び趣旨説明

委員長 仙田 満*（日本学術会議連携会員、放送大学客員教授、環境デザイン研究所会長）

2. 基調講演 香山 壽夫（東京大学名誉教授）

3. 現状の問題と改善の方向

- ・キャンパスアンケートにみる大学人の危機感

南 一誠*（日本学術会議連携会員、芝浦工業大学工学部教授）

- ・国際競争力のあるキャンパスを目指して

上野 武 (千葉大学大学院工学研究科教授)

- ・キャンパスデザインの課題と改善

小松 利光* (日本学術会議会員、九州大学特命名誉教授、九州大学大学院工学研究院環境社会部門教授)

- ・キャンパスシステムの課題と改善

池田 駿介* (日本学術会議連携会員、株式会社建設技術研究所 国土文化研究所長、東京工業大学名誉教授)

4. 総合討議

総合司会 定行まり子* (日本学術会議連携会員、日本女子大学家政学部教授)

まとめ 池邊このみ* (日本学術会議連携会員、千葉大学大学院園芸学研究科教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案28)

公開シンポジウム「親になるきみたちへ～出生前診断でわかること～」の
開催について

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会 畜産学分科会
2. 共 催：日本繁殖生物学会、帯広市教育委員会
3. 後 援：帯広市医師会
4. 日 時：平成26年8月24日（日）10：00～12：00
5. 場 所：とちプラザ レインボーホール（帯広市西4条南13丁目1番地）
6. 分科会の開催：開催なし

7. 開催趣旨：

日本繁殖生物学会は英国・Society for the Study of Fertility, SSF、及び米国・Society for the Study of Reproduction, SSR とともに国際生殖生物学会(World Congress of Reproductive Biology)を運営する学会であり、畜産学分科会委員7名(会員1名、連携会員6名)が正会員である。そして、前多敬一郎連携会員が現理事長を務め、佐藤英明会員が元理事長である。研究領域は繁殖生物学(生殖生物学)や動物発生工学です。また、人工授精、受精卵移植、遺伝子導入動物、クローン動物、内分泌攪乱物質などに係わる領域もカバーしている。第107回日本繁殖生物学会が8月21日から4日間の予定で帯広畜産大学をメイン会場として欧米からの外国人研究者も含めわが国の家畜繁殖学、実験動物学、生殖生物学、生殖医学(産婦人科学、泌尿器科学)領域の研究者・医師の参加の下に開催されるが、最終日に高校生を含む市民を対象にして標記の公開シンポジウムを開催し、『「人にあたたかい」社会をつくるために、みんなで考えること、人としておこなうべきこと』について市民の方々とともに考えることとしているところ。このような繁殖生物学に影響する課題について市民の方々とともに議論することは同分野の学術の進展にも資すると考えるものである。

8. 次 第：

10:00～10:10 はじめに

前多敬一郎*（日本学術会議連携会員、東京大学農学生命科学研究科教授）

10:20～10:50 ヒトの多様性と遺伝について考えよう～出生前診断をきっかけとして

山田 崇弘（北海道大学大学院医学研究科特任講師）

10:55～11:30 共に生きる社会を願って

三好 明子（ダウン症児・養父母の会、北海道小鳩会）

11:30～11:50 総合討論

11:50～12:00 おわりに

佐藤 英明* (日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良センター理事長、
東北大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 29)

公開シンポジウム「薬剤師の職能将来像と社会貢献」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会
2. 共 催：日本薬学会
3. 後 援：日本薬剤師会、日本医療薬学会、日本病院薬剤師会
4. 日 時：平成26年8月25日(月)13:00～17:15
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨

平成26年1月20日発出した日本学術会議提言「薬剤師の職能将来像 と社会貢献」をふまえ、その内容を具体化し実践するための方策について、各方面からの意見を受けそれに基づき討論を行う。

8. 次 第

13:00 開会挨拶

柴崎 正勝 (日本薬学会会頭)

橋田 充* (日本学術会議第二部会員、京都大学大学院薬学研究科教授)

趣旨説明

平井みどり* (日本学術会議連携会員、神戸大学医学部附属病院薬剤部薬剤部長・教授)

13:15 講演

山本 信夫 (日本薬剤師会)

「開局薬剤師から見た将来像と社会貢献」

13:45 徳田 安春 (筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター総合診療科教授)

「チーム医療による臨床推論」

14:15 松原 和夫 (日本病院薬剤師会副会長、京都大学医学部附属病院薬剤部薬剤

部長・教授)
「薬剤師からお薬の先生へ」

14:45 富岡 佳久 (東北大学薬学研究科教授)
「大学の立場から ～現状、課題、提言～」

15:15 休憩

15:30 櫻井 なおみ (患者会・キャンサーネットジャパン)
「患者の目から見た薬剤師への期待 ～今とこれから～」

16:00 中井 清人 (厚生労働省大臣官房企画官)
「薬剤師への期待 ー薬事行政の視点からー」

16:30 総合討論
望月 眞弓* (日本学術会議連携会員、慶応義塾大学薬学部教授)

17:00 閉会挨拶
安原 眞人* (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学医学部附属病院・教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)

(提案30)

公開シンポジウム

「PM2.5 とナノ粒子—微小粒子の健康影響とその対策を考える」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会
2. 共 催：日本毒性学会、日本薬学会(予定)、大気環境学会 (予定)
3. 日 時：平成26年9月6日 (土) 13:15-17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨

中国から国境を越えて飛来する微小粒子状物質PM2.5 (直径 $2.5\mu\text{m}$ 以下の粒子) の健康影響が懸念されているが、PM2.5には多量のナノ粒子(100 nm以下)が含まれているところ。それら微小粒子は、はたしてどのような健康影響を及ぼし得るのであろうか。一方で、工業的に製造されるナノマテリアルのリスク評価についての国際的な議論が、いよいよ本格化してきたところ。その議論は、ナノマテリアルへの職業的曝露・環境的曝露による有害事象の発生を回避することや、種々の分野への活用を見込んで開発される新規マテリアルの有害性を予測可能にすることを目的として進められている。

本シンポジウムの目的は、大気中に浮遊する微粒子・ナノ粒子や産業で汎用されるナノマテリアルのリスク評価を目指した我が国の研究報告を受け、その後のリスク管理の方法を我が国から世界に示していくための議論を展開し、その課題と展望を探ることにある。

7. 次 第 13:15~17:00

○主催者側挨拶 13:15~13:25

橋田 充* (日本学術会議第二部会員・薬学委員会委員長、京都大学大学院薬学研究科教授)

山添 康* (日本学術会議連携会員、東北大学大学院薬学研究科教授)

○講演 13:25~14:40

司会 吉岡 敏治* (日本学術会議連携会員、大阪府立急性期総合医療センター院長)

姫野誠一郎* (日本学術会議連携会員、徳島文理大学薬学部教授)

内山 巖雄（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

「大気微小粒子の健康科学—PM2.5の健康影響および対策は？」

武田 健*（日本学術会議連携会員、東京理科大学薬学部教授）

「ディーゼル排ガス微小粒子及びナノ材料の次世代への健康影響？」

菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所毒性部長）

「吸入全身暴露を基軸としたナノ材料の毒性評価体系の構築とMWCNTからの知見」

14:40～15:00 休憩

15:00～16:15

司会 赤堀 文昭*（日本学術会議連携会員、昭和大学薬学部客員教授）

武田 健*（日本学術会議連携会員、東京理科大学薬学部教授）

森本 泰夫（産業医科大学教授）

「労働衛生の立場から—ナノ材料を扱う職場での管理」

藤沢 久（経済産業省製造産業局化学物質管理課企画官）

「経済産業省におけるナノ材料安全対策について」

岸本 充生（東京大学公共政策大学院特任教授）

「微小粒子・ナノ材料の健康リスクにどのように向き合うべきか？」

パネルディスカッション 16:15～16:55

司会 上田 昌文（市民科学研究室代表理事）、梅澤 雅和（東京理科大学講師）

パネリスト：

内山 巖雄（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

武田 健*（日本学術会議連携会員、東京理科大学薬学部教授）

菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所毒性部長）

森本 泰夫（産業医科大学教授）

藤沢 久（経済産業省製造産業局化学物質管理課企画官）

岸本 充生（東京大学公共政策大学院特任教授）

16:55 閉会挨拶

姫野 誠一郎*（日本学術会議連携会員、徳島文理大学薬学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)

(提案 31)

公開シンポジウム「少子高齢化と日本型福祉レジーム」の開催について

1. 主催：日本学術会議 社会学委員会 少子高齢社会分科会
2. 後援：日本家族社会学会
3. 日時：平成 26 年 9 月 7 日(日) 14:00-17:00
4. 場所：東京女子大学 24 号館安井てつ記念ホール（東京都杉並区）
5. 分科会の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨

家族主義的と評される日本型福祉レジームは、とりわけ 1990 年代以降、人びとに安定的な生活基盤を提供する装置として機能しなくなった。その背景には、家族と個人（とりわけ女性）のライフコースの変化もさることながら、グローバル経済のもと、独自の福利厚生サービスを提供しえなくなった企業経営の変化がある。予測をはるかに上回る「少子化」と「高齢化」の同時進行は、このような社会変動と絡み合いつつ進行し、社会保障・社会福祉体制もさらなる再編を迫られている。「ケアの社会化」を標榜する現在の政策がめざす方向性は、変化しつつある家族と個人のライフコースに適合するものといえるだろうか。またそれは、労働環境、生活環境の変化のなかで深刻化する階層やジェンダー、そして世代間の利害葛藤に対し、調停機能を果たしているのか。今回のシンポジウムではこのような問題意識のもと、福祉レジーム論、社会政策論、労働経済学、家族研究の立場から報告いただき、政策視点に立った家族研究の課題について議論を深めたい。

7. 次第：

14:00-14:05

開催挨拶・趣旨説明

渡辺 秀樹*（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部教授）

14:05-15:45

【報告 1】 福祉雇用レジームと家族政策

宮本 太郎（日本学術会議連携会員、中央大学法学部教授）

【報告 2】 日本の社会政策は就業や育児を罰している

大沢 真理（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所教授）

【報告 3】 世帯経済としての家族—消費単位のジェンダーレジーム

服部 良子（大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部准教授）

【報告4】 ケア政策における家族の位置

下夷 美幸（東北大学大学院文学研究科教授）

15:45-16:00

休憩

16:00-16:15-

【コメント】

落合恵美子*（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

16:15-17:00

全体討論

司会：藤崎 宏子*（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成
科学研究科教授）

久保田裕之（日本大学文理学部准教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の報告者等は本分科会委員)

(提案32)

公開シンポジウム「我が国の知的生産者選定に係る公共発注システムの創造性を喚起する施策に向けて一会計法・地方自治法の改正を問う」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 土木工学・建築学委員会 デザイン等の創造性を喚起する社会システム検討分科会
2. 後 援： 日本建築学会（予定）、日本土木学会（予定）、日本造園学会（予定）
3. 日 時：平成26年9月16日（火）13：00 ～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

設計、デザイン、芸術的創作等は文化的な生活そのものを豊かにするのみならず、それが環境や製品の付加価値として観光や商業的、あるいは産業的な競争力に寄与している。グローバル化している現代、その設計、デザイン、芸術的創作等創造性を問われる領域は経済的にも極めて重要になりつつある。設計、デザイン、芸術的創作も役務として認識され、物の売買と同様の公共発注—公共調達が、明治22年制定された会計法により行われてきた。しかし時代は設計、デザイン、芸術的創作や高度な技術を要する知的生産、知的サービスと物の売買と同列に扱うことが極めて不合理になり、それが国の利益を損なう状態になっている。我が国は創造性、知的生産、によって環境価値をあげ、世界に寄与しなければならない。そのためにはその活動を阻害する要素を取り除き、創造性を喚起する社会システムを早急に構築し、推進する必要がある。創造立国、知財立国、観光立国を目指す我が国の創造性を喚起する社会システムの確立を議論する。

7. 次 第：

1. 開会挨拶

委員長 仙田 満*（日本学術会議連携会員、放送大学客員教授、環境デザイン研究所会長）

2. 議論の背景

進士五十八*（日本学術会議連携会員、東京農業大学名誉教授）

3. 全国アンケートの報告

南 一誠*（日本学術会議連携会員、芝浦工業大学工学部教授）

4. 現状の問題と改善の方向

- ・ 会計法、自治法の仕組みとしての問題と改善のための提案

福井 秀夫* (日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授)

- ・ 公共発注システムの我が国の特異性

木下 誠也 (愛媛大学防災情報研究センター教授)

- ・ 公共施設における設計入札によらない設計者選定の課題と改善

吉野 博* (日本学術会議第三部会員、東北大学名誉教授・
秋田県立大学客員教授)

5. 総合討議

司会

小澤紀美子* (日本学術会議連携会員、東海大学教養学部特任教授)

まとめ

仙田 満* (日本学術会議連携会員、放送大学客員教授、環境
デザイン研究所会長)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案33)

公開シンポジウム「福島第一原子力発電所事故プロセスの学術的検討(その2)」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 原子力事故対応分科会
2. 共 催：未定
3. 日 時：平成26年9月17日(水) 13:30～17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 委員会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

日本学術会議総合工学委員会原子力事故対応分科会では、福島第一原子力発電所で発生した事故事象を学術的観点から検討する必要があると判断して小委員会を設置し、政府事故調査委員会、国会事故調査委員会、民間事故調査委員会、東京電力事故調査委員会の調査報告書を比較検討するとともに新たに公表された事実および関係者からのヒアリング等を通じて検討を進めている。

前回に引き続き、2号機の事故進展、ベント操作の妥当性（主として2号機での対応）、3号機 HPCI 停止の妥当性に関する3項目の検討結果の報告およびパネルディスカッションを行い、この検討結果が今後の原子力利用の判断及び安全性向上に役立てられることを望む。

7. 次 第：

13:30 主催者代表挨拶：

矢川 元基*（日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会
理事長）

講演司会：

竹田 敏一*（日本学術会議連携会員、福井大学附属国際原子力工学研究
所・特任教授）

13:40 講演1：福島第一原子力発電所事故の時系列：

宮野 廣（法政大学大学院デザイン工学研究科客員教授、日本原子力
学会事故調査委員会委員）

- 14 : 10 講演 2 : 2号機から最も多くの放射性物質が放出された理由 :
白鳥 正樹* (日本学術会議連携会員、横浜国立大学名誉教授、同安心・
安全の科学研究教育センター客員教授)
- 14 : 40 講演 3 : ベント操作の妥当性 (主として2号機での対応) :
澤田 隆* (日本学術会議特任連携会員、一般社団法人日本原子力学会
理事・事務局長)
- 15 : 10 講演 4 : 3号機における高圧注入系を手動停止した理由 :
松岡 猛* (日本学術会議会員、宇都宮大学非常勤講師)
- 15 : 40 休 憩
- 15 : 55 パネルディスカッション／福島第一原子力発電所事故で何が起こったのか
司会 : 矢川 元基* (日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会
理事長)
パネリスト(予定) :
田中 三彦 (元国会事故調査委員会委員)
越塚 誠一 (日本学術会議連携会員、元政府事故調査委員会技術顧問)
宮田 浩一 (東京電力原子力安全・統括部原子力安全グループマネージャー)
宮野 廣 (法政大学大学院デザイン工学研究科客員教授、日本原子力学
会事故調査委員会委員)
- 17 : 25 まとめと閉会挨拶 :
松岡 猛* (日本学術会議会員、宇都宮大学非常勤講師)

8. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案34)

公開シンポジウム「超高齢社会における歯科基礎医学の役割」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 歯学委員会 基礎系歯学分科会
2. 共 催：歯科基礎医学会
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成26年9月27日（土） 9:00-11:00
5. 場 所：福岡国際会議場（福岡市博多区石城町2-1）
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨

基礎系歯学分科会では、関連学会との連携を強化するために過去7年間、歯科基礎医学会において日本学術会議主催のシンポジウムを開催してきており、第22期日本学術会議歯学委員会では、「超高齢社会における歯学・歯科医療のあり方」を中心課題として活動しているところ。そのため、第56回歯科基礎医学会学術大会で「超高齢社会における歯科基礎医学の役割」に関するシンポジウムを開催して関連学会との連携を図り、基礎系歯学分科会活動を強化していきたいと考えるものである。

8. 次 第

座長：脇坂 聡*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院歯学研究科教授）

平田 雅人（歯科基礎医学会常任理事、九州大学大学院歯学研究院口腔細胞工学分野教授）

開会挨拶

山口 朗*（日本学術会議第二部会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再建学講座口腔病理学分野教授）

シンポジストの発表

9:00-9:30 「超高齢社会における歯科基礎医学の役割：機能的観点から」

滝川 正春*（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院歯薬学総合研究科教授）

9:30-10:00 「超高齢社会における歯科基礎医学の役割：形態学的観点から」

山口 朗*（日本学術会議第二部会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研

究科口腔機能再建学講座口腔病理学分野教授)

10:00-11:00 「超高齢化社会における基礎老化研究の意義」

遠藤 玉夫 (日本学術会議連携会員、東京都健康長寿医療センター研究所副所長)

閉会挨拶：

岩田 幸一* (日本学術会議連携会員、日本大学歯学部・生理学教室教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)

(提案35)

公開シンポジウム「イノベーションの歴史に学ぶ—アーカイブ構築と国際情報発信の意義・重要性」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会、史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会
2. 協 賛 日本科学史学会、日本経営史学会
3. 後 援 明治大学ビジネスイノベーション研究所、立命館大学イノベーションマネジメント研究センター
4. 日 時 平成26年9月27日(土) 13:00~17:00
5. 場 所 明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー1階1011教室
(東京都千代田区)
6. 分科会 開催予定なし

7. 開催趣旨

日本の科学・技術開発とイノベーション実現の将来構想には、学術面から見て、その構造に問題があることを認識し、解決策を講ずる必要がある。その学術的な研究を進めるにあたって手立ての一つとして欠かさないのが一次史資料であり、こうした史資料にもとづいて実証的な歴史的研究をおこなうことで、上述の学術面から見た構造的問題の解決の糸口が見出されるであろう。

この点での取り組みの仕方について、イノベーション史に関する、科学史・技術史、経営史・産業史、産業政策、等々の各分野からのアプローチの学術的検討、あるいは先駆的な史資料アーカイブの国内外の取り組みの成果を含め、検討することが考えられる。

本公開シンポジウムは、次の3点を念頭に、科学史技術史関連、経営史関連、ならびに企業資料アーカイブ関係についての報告をおこなう。

①歴史的研究対象としてのイノベーションに関する共通認識の形成に向けて多面的視点からの考察・討論、②20~21世紀に日本におけるイノベーションの歴史に関する概括的な共通認識の形成に向けての多面的視点からの考察・討論、③多面的なイノベーションの歴史を学ぶこと、およびイノベーションの歴史を研究することの意義・重要性、の3点である。

シンポジウムの次第は以下の通りであるが、当日はフロアの意見を聴取し、議論を深めることとする。

8. 次第

13:00～13:05

開会挨拶（日本学術会議会員：交渉中）

司会：兵藤 友博*（日本学術会議第一部会員、立命館大学経営学部教授）
佐々木 聡（明治大学経営学部教授）

13:05～14:05

第1部「世界と日本における発明・発見・イノベーションの歴史的展開」

◇「イノベーション概念の歴史的＝理論的整理」

佐野 正博*（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

◇「技術史から見た戦後日本のイノベーションの展開」

田口 直樹（大阪市立大学大学院・経営学研究科教授）

14:20～15:20

第2部「経営発展とイノベーション」

◇「経営革命：イノベーション遂行者としての企業家」

米倉誠一郎（一橋大学イノベーション研究センター教授）

◇「日本経営史にみるイノベーションと企業競争力」

橘川 武郎（日本学術会議連携会員、一橋大学商学研究科教授）

15:30～16:00

第3部 「イノベーションの歴史的記録・保存の社会的意義」

◇「企業史料とビジネス・アーキビスト」

高津 隆（帝国データバンク史料館・館長）

16:10～16:55

全体討論

16:55～17:00

閉会挨拶（明治大学副学長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案36)

公開シンポジウム「第63回理論応用力学講演会」について

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共 催（予定）：応用物理学会、化学工学会、自動車技術会、地盤工学会、土木学会、日本応用数理学会、日本風工学会、日本機械学会、日本気象学会、日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本航空宇宙学会、日本混相流学会、日本地震工学会、日本数学会、日本船舶海洋工学会、日本伝熱学会、日本物理学会、日本流体力学会、農業農村工学会、力学アカデミー
3. 日 時：平成26年9月26日（金）～28日（日）
4. 場 所：東京工業大学大岡山キャンパス（東京都目黒区大岡山2-12-1）
5. 分科会の開催：機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
6. 開催趣旨：

「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として長年開催されてきた。力学分野が細分化する中で、各々の分野の先端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、各分野が共通に抱える問題や将来への展望についても分野を超えて情報交換することが本講演会開催主旨である。
7. 次 第：

開催日の最初に、日本学術会議 機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長の挨拶を行うとともに、分科会委員等学術会議会員、連携会員を中心として、力学分野の今後のあり方などに関するパネル討論を実施する。

(1) 挨拶

9月26日(金)

13:00～13:15 岸本喜久雄*（日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授）
元結正次郎（東京工業大学教授、第63回理論応用力学講演会運営委員会委員長）

13:15～15:15 特別講演(学協会からの推薦を受けて2件を選定予定)

パネルディスカッション

9月27日(土)

14:30～17:00

「力学と他分野とのコラボレーションへの挑戦」(仮題) 下記
委員会等メンバーを中心に企画し、課題について討論を行う。

元結正次郎(東京工業大学教授、第63回理論応用力学講演会運営委
員会委員長)

藤井 孝藏*(日本学術会議連携会員、独立行政法人宇宙航空研究
開発機構宇宙科学研究副所長・教授)

岸本喜久雄*(日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学
研究科教授)

松尾亜紀子*(日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)

(4) 研究発表(テーマを一般公募)

9月26日(金)	9:30～12:00	5室, 研究発表30件
	15:45～16:45	5室, 研究発表15件
9月27日(土)	9:30～12:00	5室, 研究発表30件
9月28日(日)	9:30～12:00	5室, 研究発表30件
	13:15～17:15	5室, 研究発表45件

8. 関係部の承認の有無: 第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案37)

公開シンポジウム「サービス学の新たな展開」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 総合工学委員会 サービス学分科会、機械工学委員会 生産科学分科会
2. 後 援： 科学技術振興機構 社会技術開発研究センター、サービス学会
芝浦工業大学「工学におけるサービス・イノベーション研究会」
(すべて予定)
3. 日 時：平成26年9月30日(火) 13:00 ~16:30
4. 場 所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス 交流棟402号教室
5. 分科会の開催：
サービス学分科会 同日11:30~12:45 芝浦工業大学豊洲キャンパス
6. 開催趣旨：
物財と同様に、サービスに対する科学的認識が進んできている。従来、経済学や経営学の対象であったサービスあるいはサービス活動について、行動科学、心理学、工学など諸領域からの取り組みが活発化している。一方、第3次産業が雇用でもGDPでも7割を超えている状況を鑑みるなら、サービスに関する学術的取り組みの方向性を日本学術会議として明確に示していく必要があり、平成24年に総合工学委員会サービス学分科会が設置された。
本シンポジウムはサービス学分科会の初めての活動報告である。サービスに関する学術的取り組みは、未だ多様であり、既存のサービスを新たな視点で理解し直し、サービス活動の解明、サービス生産の高効率化、価値共創のあり方などについて研究が進展している。そこでシンポジウムでは、サービスをどのように学術的に扱うかについて討論する。サービスのモデル、研究方法、技術予測を眺め、サービスに関する学術的活動の拡がりを押さえて、サービスに対する日本学術会議の取り組み方法を議論する。
7. 次 第：
 - (1) サービス研究の方法
土居 範久*(日本学術会議連携会員、中央大学研究開発機構教授)
 - (2) サービスの設計論理
上田 完次*(日本学術会議連携会員、独立行政法人産業技術総合研究所特別)

顧問、東京大学名誉教授)

(3) 経営学におけるサービス研究と理工学的アプローチ

戸谷 圭子(明治大学大学院 グローバル・ビジネス研究科教授)

(4) サービスの社会実装

中島 秀之*(日本学術会議連携会員、公立ほこだて未来大学学長)

(5) サービスの技術予測

新井 民夫*(日本学術会議会員、芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案38)

平成26年度日本学術会議近畿地区会議主催学術講演会
「発電以外の原子力利用の課題と展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、原子力利用の将来像についての検討委員会原子力学の将来検討分科会、大阪大学
2. 協 賛：大阪科学技術センター
3. 日 時：平成26年8月30日（土）13：00～17：30（予定）
4. 場 所：大阪科学技術センター 中ホール
5. 分科会の開催：無

6. 開催趣旨：

平成23年3月11日の東日本大震災に伴う福島原発事故によって、我が国の原子力利用のあり方が根本的に問い直されることとなった。日本学術会議では「原子力利用の将来像についての検討委員会」を設置し、原子力発電の安全性、放射線の利用に係る課題、原子力学に関する人材育成、原子力学の研究の方向性等のきわめて広範な課題について審議を進めてきた。この検討委員会の下で設置された「原子力学の将来検討分科会」では、原子力発電以外の原子力の平和利用の展望と安全性及び国民世論との関係の検討や、その基盤となる原子力学における人材育成、原子力学の研究の方向性に関することを調査審議してきた。

本講演会では、原子力学の将来検討分科会で審議された内容を基軸として、本課題に密接に関係した講師をお招きして研究用原子炉の将来検討、農学・医学・工学・工業生産における放射線の利用、原子力人材育成等に関する課題の現状と展望について紹介していただき、我が国の発電以外の原子力利用に関する、市民の理解の深化を目指すものである。

7. 次 第：

開会の挨拶

橋田 充*（日本学術会議第二部会員・近畿地区会議代表幹事、京都大学
薬学研究科教授）

馬場 章夫（大阪大学副学長・理事）

講演

「原子力学の将来検討」

家 泰弘* (日本学術会議第三部会員・副会長・原子力学の将来検討
分科会委員長、東京大学物性研究所教授)

「農学・生命科学における放射線利用」

中西 友子 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究
科教授、原子力委員会委員)

「放射線の医学への応用」

米倉 義晴 (日本学術会議第二部会員、放射線医学総合研究所理事長)

「ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) によるがん治療」

鈴木 実 (京都大学原子炉実験所教授)

「研究用原子炉を用いた工業生産」

河村 弘 ((独) 日本原子力研究開発機構)

「原子力人材育成」

山中 伸介 (大阪大学大学院工学研究科教授)

伊藤 哲夫 (近畿大学原子力研究所所長)

閉会の挨拶

森山 裕丈 (京都大学原子炉実験所所長)

総合司会

中嶋 英雄* (日本学術会議第三部会員、(公財) 若狭湾エネルギー研究
センター所長、大阪大学名誉教授)

(*印の講演者は主催地区会議・分科会委員)